

# 狩野さん 数学五輪世界1位

## 松本深志高3年

### 「取りたかった」満点で

松本深志高校3年の狩野慧志さん(17)は、松本市で、オーストラリアで開かれた高校生以下の「国際数学オリンピック(IMO)」で満点を獲得し、世界1位の快挙を成し遂げた。20日までに松本市内の家族に連絡があり、数学オリンピック財団のウェブサイトにでも発表された。

狩野さんがIMOに出場するのは3年連続。金メダルは上位12分の1の成績上位者に贈られる。2024年7月に英国で開かれたIMOでは、狩野さんは日本人トップの世界4位だった。狩野さんが金メダルを取ったのは2年連続。23年のIMOでは銀メダルだった。

母の益美さんは狩野さんと19日夜に電話で話した。「おめでとう」と声をかけると、狩野さんはひと言、「ありがとう。毎選賞を受賞している。」と答えたという。益美さんは「ずっと満点を取りたいと言っていた。有言実行してくれた」とねぎらった。

狩野さんは昨年の第29回信



国際数学オリンピックの前に自宅で取材に答える狩野慧志さん



狩野慧志さん

## 国際数学五輪

# 狩野慧志さん 世界一

## 深志高3年 見事に満点 5人のみ

松本深志高校(松本市)3年生の狩野慧志さん(17)＝松本市寿北3＝が、オーストラリア・サンシャインコーストで19日まで開かれていた国際数学オリンピック(IMO)で、全問正解して、世界1位となる快挙を成し遂げた。(真田尚子)

公益財団法人数学オリンピック財団のホームページなどによると、コンテストは7月15日と16日に実施され、各日4時間半で319日の閉会式とメダルをかけたら『ありがとう』と、いつもの通り

問が出題された。狩野さんは42点満点を取り、トップに輝いた。満点は5人で、日本人は狩野さんのみ。

ルセレモニー後、狩野さんと電話で話した母親の益美さん(53)は『おめでとう』と声をかけたら『ありがとう』と、いつもの通り

話したこともあり「プレッシャーもあったのでは」と気遣う。「帰ってきたら、食べたい物を食べさせてあげたい」と話していた。

ひょうひょうとしていた」と話す。だが、大会前に新聞の取材で「満点を取りたい」と話したこともあり「プレッシャーもあったのでは」と気遣う。「帰ってきたら、食べたい物を食べさせてあげたい」と話していた。